

令和6年度オガサワラカワラヒワ保護増殖事業検討会における指摘事項と対応状況

議事内容	指摘事項	対応状況
母島属島におけるネズミ類対策について	平島、丸島、二子島のネズミ駆除にかかる記録は、他の事業で参照することのできる形で共有していただきたい。	今後、整理する内容を検討していく。
	姪島と向島の殺鼠剤散布にはドローンの使用が不可欠なため、なるべく早く利用可能となるよう取り組むべき。	令和7年度環境省事業において、追加のドローン散布試験を姪島にて実施予定。なお、姪島での試験結果を踏まえて東京都事業において向島でドローン散布が可能か検討中。
	ドローンの技術開発について、来年度の対策に向けて既存の技術等を応用してどのように実施するかといった検討が必要。	
	鯉島島で生息が確認されたクマネズミの駆除は優先度が高い。鯉島島一群のクマネズミを根絶した上でカメラ等によりモニタリングを実施し、ネズミの再侵入を防止することが必要。	保護増殖事業全体の進捗及び対策の優先度を踏まえて今後検討予定。
オガサワラカワラヒワの殺鼠剤影響の把握について	殺鼠剤の散布手法や散布時期を検討していくうえで、オガサワラカワラヒワの殺鼠剤の感受性に関する情報は重要なため、ぜひこのまま進めていただきたい。最終的には、オガサワラカワラヒワの感受性に関する情報が重要になる。	環境省総合推進費においてオガサワラカワラヒワに対するダイファシノンの影響を評価する予定（資料5にて説明）。
オガサワラカワラヒワの生息域外保全について	現状では、待機させているつがいに繁殖機会をなるべく多く与えて、一回でも繁殖を成功させることが重要であり、上野動物園や、島内のネズミの危険のない場所に分散飼育を検討するのがよい。	資料2-1及び資料2-4にて説明。
令和7年度のオガサワラカワラヒワ保護増殖事業について	人工餌場について、従来の分担のように環境省には母島属島全体で実施してほしい。特にネズミの密度が低下している向島と姪島の人工給餌が重要。東京都の事業等を含めて全体を見据えて検討すべき。	資料4にて説明。
	現状の飼育下繁殖の技術、有効集団サイズが50羽以下になる可能性	今後、検討予定。

	を踏まえると、例えば聳島列島といった、別の場所への再導入を検討する必要がある。来年度に、ワーキンググループ等の場で再導入の手法や整えるべき条件等について検討を始める必要がある。	
	本土での分散飼育を始めるにあたり、本土と小笠原での移送を想定した感染症対策について検討を始めるべき。	今後、飼育繁殖計画の作成に合わせ検討予定。
	保護増検討会では環境省事業だけでなく各主体が実施している事業の全体像を示した上で、実施内容や欠けている事柄等について議論できるように用意して欲しい。	現時点での各実施主体における取組状況をとりまとめた。
その他	オガサワラカワラヒワの越冬地の保全が重要なため、越冬地を明らかにする取り組みを計画の中に盛り込んで欲しい。	保護増殖事業全体の進捗及び対策の優先度を踏まえて今後検討予定。